

公益信託世田谷まちづくりファンド

第23回助成事業 審査講評

はじめの一步部門

<1 世田谷楽しいコミュニケーショングループ>

- ・私の経験上、人が集い来るような、まちづくり活動を展開できている方々は、確かにコミュニケーション能力が高いと思います。会員、参加者、スタッフ（特に若者を）を増やしたいと考えている活動グループも少なくありませんので、例えば、そういった方々のPR能力を向上するための支援などあったらいいと思いました。
- ・傾聴ボランティアから演劇的手法を活用した活動へと展開しようとしているのですね。世田谷では1980年代から演劇ワークショップやフォーラムシアターなどを障害者の自立生活運動やまちづくりに区民自身が活かしてきた歴史があるんです。世田谷パブリックシアターの「地域の物語」などにもアクセスしてみてください。ネットワークが広がると思います。
- ・コンセプトに共感しました。どのように人を巻き込めるか、今年はぜひいろいろとチャレンジしてください。
- ・コミュニケーションがうまく取れない方たちの環境改善や、新たな人材の発掘に「インプロ（即興演劇）」という手法を活用されるということで、とても興味深く企画を拝読しました。是非、区内の様々な活動のヒントになるようインプロの可能性・成果を広げていただくことを期待しております。なお、区全域や近隣都市へのチラシ配布を想定されていますが、500部で足りるのかが気になりました。
- ・価値観の多様化から、職場や家族ですらもコミュニケーションが上手くとれないことで悩む人々が多い。そこで、インプロ（即興劇）を活用して、人間関係をフラットな関係から、再構築していく手法は興味もてる。「語り相手サロン」の活動を通して、多世代の人々や家族、地域の人々の繋がりが深まることを期待したい。

- ・私も障害当事者が自らの体験を演劇化することにより、新たな自己発見や社会の障害理解を進めるという活動をしているので、インプロ（即興劇）を利用しての多世代、地域の繋がりやの深まりに期待しています。
- ・「インプロ」というツールを持っている強みを活かし、なかなかコミュニケーションのとれない方々のコミュニケーション力を高め、その力が地域との繋がり、まちづくりに発展していくことを期待しています。

＜ 2 世田谷区庁舎のケヤキ並木が作る広場の風景を愛する会 ＞

- ・普段は脇役である、「地」としての広場を主役に行っている点で、興味深い試みだと思われます。数多くの区民の方にその存在意義を知ってもらうだけではなく、活用してもらえようように活動を深めていただければと思います。
- ・原風景や環境デザインという観点から区庁舎の魅力を見ることが、次の世代の区庁舎の計画につながると期待しています。幅広い区民に知ってもらう工夫を検討してください。
- ・すでに価値を知っている人同士ではなく、まだ知らない人、若い世代の人に伝えていくことが大事です。その意味で、小学生を対象にしたWSにはとても期待しています。
- ・第3回地域風景資産にも選定されたこの区庁舎と広場の価値を、広く区民に伝えていく活動はとても大切なことだと思います。まち歩きやワークショップを通して参加者が空間の価値を多くの人に体験してもらうことで、今後区庁舎の建替えが進んだとしても、これからのまちづくりにその価値を活かしていくような人材育成につながっていくことを期待します。特に小学生に向けた空間ワークショップは次世代への人材育成として非常に有効だと思いました。
- ・区内には後世に残したい景観が多々あり、その保全は急務である。区庁舎の並木広場もその一つである。しかし、その価値を多くの区民に知らせ、保全の必要性を啓発することはむずかしい。本グループはその難題に正対し、並木広場の多様な活用を通して、区民にその保全を訴えようとしている。その結果として、区民参画型の保全活動が推進されることを期待する。
- ・実際の景色の中でワークショップを行い、参加者に地域の魅力を認識させ、積極的な景観保護活動を興すという手法に期待します。

- ・地域資産の価値や魅力を地域に住む人々が共有し、その活用や地域資産を踏まえた地域のまちづくりを自らが考えるきっかけとなることを期待しています。

< 3 特定非営利活動法人 若者の自立支援 ‘Smile Bouquet’ すみれブーケ >

- ・児童養護施設を退所した若者の大変さは、テレビのドキュメンタリーで時折目にする程度で、広く理解されているとは言い難い状況だと思われます。まずは身近に存在していることを知ってもらうとことだけでも有意義だと考えます。
- ・地域の児童養護はそれ自体の存在があまり知られていませんし、施設退所後の若者についても関心がはらわれていないと思います。ファンド助成の人的ネットワークを活用して、居場所をオープンにしていくことやいろいろな人との関わりをつくる手法を広げてください。
- ・活動自体は非常に重要です。しかし、音楽会がどのように次の拠点づくりにつながっていくかはやや心もとないと感じます。どうステークホルダーを巻き込むのか。今年はその戦略が見えてくるとよいですね。
- ・児童養護施設退所後の居場所づくりを進められていいるということで、とてもすばらしい活動だと思います。なお、イベントの集客に向けてチラシの配布を想定されていますますが200枚で足りるのかが気になりました。チラシは集客に直接つながらなくても、少しでも興味を持って手に取ってくれた人への活動PRの効果もあいますので、できるだけ広く配布できるようにするとよいと思います。
- ・児童養護施設退所後の若者にとって、心の拠り所となる居場所づくりは意義のある活動である。そんな若者の“実家”づくりのために同職に限らず、地域の人々や区内の他のNPOとの交流を通して活動を進めることは評価できる。この活動を通して、施設退所後の若者を受け入れる社会づくりの輪が広がることを期待したい。
- ・児童養護施設退所後の若者をどう支えていくかということは、非常に大きな社会問題です。各種NPOや地域の人々と連携して、若者や子供たちを社会全体で支えるというムーヴメントを起こしてください。
- ・児童養護施設退所者の支援は世田谷区としても取り組まなければならない課題となっており、養護施設やNPO等との連携が必要となつています。皆さんの活動が先導的な役割を担っていただき、地域に広がっていくことを期待しています。

< 4 暮らしの中で和を楽しむ会、柏葉会 >

- ・生活文化の継承を通じた、地域の人々が世代・性別を超えて交流できる場、一歩ずつでも是非実現していただきたいです。多世代の人々を集めるのは先人達も結構苦労されていますが、一年目なので、イベント内容や呼びかけ方など試行錯誤しながら進めていただけたらと思います。
- ・畳のある和室でのふるまい、いまは知らない世代も多くなりました。お茶は「和」のアイデンティティ。希少価値だからこそ、発信力も必要です。いろいろなところから取材してもらいましょう。小坂邸が和を楽しむ活動のハブ的な機能が担えるようになるといいですね。
- ・無理なく活動がはじめられそうな素敵なグループです。こうした活動は、いつのまにか、助成金がないと続けられない、という状態に陥りがちです。初年度から、助成金モデルとは違う形での継続手法を視野に入れて活動をしていただけるとよいと感じました。
- ・茶会や着物体験を通じた世代交流の場づくりはとてもすばらしい活動だと思います。ファンドの助成団体の中には、文化を通じた場づくりや多世代交流を目指す活動も複数ありますので、情報交換や連携をしながらノウハウを蓄積していただければと思います。なお、イベントの集客に向けてチラシの配布を想定されていますが、各回100枚で足りるのかが気になりました。チラシは集客に直接つながらなくても、少しでも興味を持って手に取ってくれた人への活動PRの効果もありますので、できるだけ広く配布できるようにすると良いと思います。
- ・本活動は日本文化の代表的な「茶道や着物」を通して、地域の人々が交流することで、人々の絆を深めようとしている。そのことは、現代日本が守りたい日本の「伝統文化」と人々の「絆」の両面に関わる活動で意義がある。歴史的価値のある旧小坂邸での活動に限らず、他の施設を訪問して、活動の広がりを進める計画も評価できる。日本の「和」を通して、多くの人々の「絆」が深まることを期待したい。
- ・日本の伝統文化や和の心を身近に体験させるという活動はとても大切なことだと思います。ぜひ若い人や子供たちにも積極的に広めてください。
- ・暮らしの中で自然に行われる茶会や着物体験をしてもらおうという発想に共感を持ちました。そのためには、地域の老人ホームや保育園などに出張する企画も是非進めていただきたいと思います。

< 5 せたがや 子ども・ワカモノねっと >

- ・「子ども食堂」のコンセプト、出会いの場づくりを兼ねた調査設計、子ども・若者参加型のPRカードの制作等々、先のことをしっかりと見据え、考え抜かれた素晴らしい企画だと思います。「子ども食堂」を実際に運営するには色々のご苦勞もあるでしょうが、子ども達がおしゃべりしながら夕飯を食べる姿を是非見てみたいです。
- ・子どもの貧困や孤食の実態が少しでも知られるような、そして子ども自身にこそ知ってもらえるようなリサーチに期待します。ワカモノ当事者やプレーワーカーだからこそできる手法を開発してほしいです。
- ・子ども食堂が実現すること楽しみにしています。現状を知るのは大切ですが、より多くの子どもの接触機会が増えるとよいと感じました。団体カードのデザインや、アンケートの配布方法に工夫があるとよさそうです。
- ・子ども・ワカモノの問題を、同じ若者の目線で企画されており、現場主義、当事者目線を持った調査活動やカードづくりに期待しています。そこで得られたリアルな子ども・若者の声を大切に、子ども食堂の実現につなげていただければと期待しております。
- ・貧困や親の仕事の関係で生じる子どもの「孤食」は社会問題となっている。その対応のために、実態調査を地域（世田谷区内）で行い、子どもの孤食の現状を把握することは意義がある。また、具体的な対策として「子ども食堂」の設立は興味深い。設立の為には、地域の多くの人々の理解と協力が必要となるので、調査と同時に本グループの組織づくりや他の機関、団体との連携が深まることを期待したい。
- ・子供の貧困は今や大きな社会問題となっていますが、プレーパークで子供たちによりそってきた人たちだからこそ、より深い想いを感じました。調査と共に実際の子ども食堂開設に向けて動き出してください。
- ・子ども・若者への「食」に関する調査で、しっかりと実態を把握し、その結果を広く発信することが、その後の活動の展開にプラスになると思います。「子ども食堂」実現へ向けたロードマップをどう描いていくのか注目しています。

< 6 東大原小学校おやじの会 >

- ・小学校の統廃合は大人の論理で進められているものなので、それによって子どもたちが大変な思いをすることは避けるべきという会の考えに大きく賛同します。審査会の際の発言（決意）を拝聴し、むしろ統合によって新たな交わりが生まれることへの期待感が湧きました。
- ・近いとはいっても、それぞれの小学校の地域の班や、歩んできた道は異なります。勉強会に加えて、守山小学校といっしょに共同作業（学区域内まち歩き、体験活動、創作活動など）ができればよいですね。ぜひ検討してみてください。
- ・組織づくりを事前に始めるという視点が素晴らしいと感じました。もう一方の学校の方がたとの信頼関係ができるとよいですね。あとはぜひ、楽しく活動していただければ幸いです。
- ・双方のおやじの会同士で話し合いながら、お互いの良いところを活かした組織づくりにつなげていただければと期待しています。
- ・少子化が進行する現代社会では学校の統廃合は避けては通れない課題である。また、統廃合に伴い各学校文化の継承をどうするかはおおきな問題である。そのような点で、新生おやじの会の活動は他の多くの地域で同じ問題に悩む人々の指針となる活動で評価できる。統合された各学校の良き伝統をうまく活かせる学校づくりを通して、その地域の活力の維持にも活躍を期待したい。
- ・少子化の現代、学校の統合は避けられませんが、ともすれば地域社会の崩壊にも繋がりがねません。子供たちの楽しい学校生活のためにも統合前から綿密な準備をし、新たな絆の構築を期待します。
- ・私も以前、おやじの会の代表をやっていた経験がありますので、苦労も楽しさも知っています。守山小との統合がプラスに作用し、おやじの会も2倍以上のパワーを発揮されることを願っています。

< 7 ビジュアルコミュニケーション研究会 世田谷 >

- ・手作りカメラは魅力的なツールで、その活用を通じて、世田谷のまちに興味を持ってもらったり、コミュニケーションを促したり、というなかなか練られた企画だと思います。沢山の人に参加してもらえるように、PRについては特に力を入れていただきたく思います。

- ・カメラの中に自分が入っている！という体験、すごくおもしろくなりそうですね。なるべくいろいろな人をまきこんで、協力してもらってください。改めてまちの風景を発見する機会になれば素晴らしいです。世田谷地域風景資産なども参照してください。
- ・非常に楽しい場ができそうです。ぜひ、開催の場や多くの人に情報が届くネットワークを提供してくれる人とのつながりをつくってみてください。
- ・カメラオブスクラを使った参加手法は斬新で、どのようなものが出来上がるのか興味深いと思います。体験と写真撮影をレポートにし商店街や公園で過ごす住民・参加者の家族へ発表されるとありますが、是非インターネットでも紹介するなど、多くの人にこの新たな取り組みを知っていただけるとさらに良いと思いました。
- ・「多様な視点をもつことが豊かさに繋がる」と考え、そのツールとして「カメラオブスクラ」を活用する活動は興味深い。箱の中から外界を覗くことで、「暮らしは日々、周囲の環境のなかで営まれていること」に気づき、「地域の協働活動への参与」の意識が育まれることは理解できる。また、子どもと大人がお互い存在が暮らしを形成させていることから互いを尊重し合う気質が生まれ、街づくりに心が向かうことも本活動の意義を示している。是非、次年度、具体的な人々の変容、街の変容の様子を聞かせて頂きたい。
- ・「カメラオブスクラ」というツールで子供たちに街への新たな視点を体験させるという、まちづくりの新しい手法に興味をもちました。できれば私も体験したいです。
- ・初めて耳にした「カメラオブスクラ」という手法に興味を持ちました。ただ、この手法が街づくりにどう活かされるのか、具体のイメージが出来ないところもあり、今後の展開を楽しみにしています。

< 8 C.R.S (コマーシャル・レクリエーション・サービス) >

- ・この活動企画は、精神的負担の大きい介護をしている人々に、心の安らぎをもたらす可能性を持っていると思います。そういった人たちにこの活動の存在を気づいてもらうことが肝要だと思いますので、情報を届けたい人たちに情報が届くような回路をしっかりと開拓していただきたいです。

- ・今回の申請は映画上映とのことですが、今後みなさんの日常的な行為がどのように展開していくのか楽しみです。いまの時代、若い人たちにこそ、関心を持ってもらいたいテーマですよ。情報発信に工夫をお願いします。
- ・介護や福祉の話題で地域で集まり話せる場（福祉施設以外）はとても重要です。ぜひこれを足がかりに、素敵なコミュニティをつくっていきましょう。
- ・「毎日がアルツハイマー」は、私も地域での映画会の開催をお手伝いしたことがあります。認知症の介護という重いテーマを楽しく笑い飛ばすような映画で、会場からも笑いが起こっていました。今回は監督のお話しが聞ける貴重な場になるということで、なかなかこういう場に参加することを躊躇している人が気軽に参加できるような告知ができるといいと思いました。
- ・高齢者社会を迎え、認知症や介護に関する話題はおおきな社会問題である。特に、介護者に限らず、健康であっても認知症や介護についての正しい知識を学ぶことは重要である。また、経験者の話を聞いたり、自分の話を聞いてもらったりすることは、精神的な支えとして大切である。そのような機会を設ける点で、本活動は大変、意義深いもので評価出来る。映画の上映等の活動を通して、多くの方々との繋がりが広がることを期待したい。
- ・介護に忙殺されている人ほどの確かな情報が届きにくくなっています。そういう人たちへこの活動がきちんと伝わるよう、お願いします。
- ・認知症や介護は大きな社会問題になっており、今回の企画が当事者のみならず、できるだけ多くの方が参加し、情報交換などをする機会になることが望まれます。参加者の呼びかけ方法を工夫してください。

< 9 実家なんとかし隊 >

- ・「手つかずの実家」は区内に沢山存在すると考えられる上、今後さらに増えてゆく可能性も否めません。放置された厄介物を資源に変える面白い取り組みであり期待していますが、首尾よく「実家」を見付け出すことは簡単ではないかもしれません。1軒1軒何とかがんばっていただきたいです。
- ・高齢社会になってリサイクルの役割も新しくなってきましたね。ものの循環が生まれ継続することができるようになれば、本物のまちづくりではないでしょうか。地

域のいろいろなセクションと協力し合って、保管場所やバザー会場の確保をすすめてください。

- ・整理というポイントをついた企画は、非常に可能性がありそうです。実際にどのようにサービスを必要としている人に情報を届けるのが重要です。ぜひ初年度はいろいろとトライアルを重ねてみてください。
- ・「家に物があふれて片付けられない」というのは、まさに誰の家でもありそうな共感度の高い問題だと思います。この活動の実績が今後アピールできるようになると、ニーズが一気に広がっていくのではないかと思います。今後に向けては、利用者が安心して気軽に依頼できるような、わかりやすいパンフレットがあるといいと思いました。
- ・誰もが気にしていた事なのに、なかなか表に出にくい課題を拾い上げた着眼点は素晴らしいと感じる。多くの、家庭で少なからず話題になっている事だと思うが、想いである物には気持ちが優先して処分できないものである。そこで、断捨離アドバイスやセミナーを実施し、生活用品等の整理・整頓から住居環境の向上を図る本活動は大きく評価できる。家の中の課題解決が高齢者に優しい安心安全なまちづくりに繋がることを期待できる活動である。
- ・遺品整理、生前整理はすべての人がいずれ直面する問題です。他団体とも協力し多くの地域で活動が広がることを期待します。
- ・ご自分の実家を何とかしたという想いから始まったことですが、現代が抱える共通の課題であり、同じ想いを持った人は数多くいると思います。是非、共感する人たちの参加を広く呼びかけ、共に取り組んでいって欲しいと思います。